

児湯郡小体連 (学校数 14 校 児童数 3519 人)

I 年間事業

(☆…今後の予定)

月 日 (曜日)	事業名	内 容 【出会者】
5月13日 (金) 高鍋高校	第1回小・中・高体連合同理事会	【理事長 出会】 ○ 小・中・高の情報交換、交流
5月13日 (金) ひなた宮崎県総合運動公園	宮崎県小学校体育連盟 第1回評議員会 14:00~16:00	【理事長 出会】 ○ 新役員の発表及びあいさつ ○ 令和3年度 報告・協議
6月3日 (金) 宮崎県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第1回理事会・専門部会 14:00~16:00	【理事長・研究部長・事業部長出会】 ○ 事務局からの報告 ○ 理事会・専門部会
6月30日 (木) 木城町総合交流センター (リバリス)	第1回児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 役員・会員の自己紹介 ○ 県小体連理事会・専門部会報告 ○ 協議(事業計画 研究構想) 等
7月29日 (金) 上新田小学校	小学校体育地区別講習会 9:00~16:00	○ スポーツ指導センターによる講義 ○ 「陸上運動」講義・協議・実技
8月19日 (金) 宮崎県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第2回理事会・専門部会・合同研修会 10:00~16:00	【理事長・研究部長・事業部長出会】 ○ スポーツ事業委託金配付 ○ 県学体研における小学校部会指導案検討
9月16日 (金) 木城町総合交流センター (リバリス)	児湯小学校体育研究会 理事会・専門部会	○ 指導案検討 ○ 研究の方向性確認
11月8日 (火)	第2回児湯小学校体育研究会 ○ 研究授業	○ 研究授業 ○ 事後研究会
11月17日 (木) サンドーム日向	第63回宮崎県学校体育研究発表大会 ※コロナ対策のため、参加者を制限	○ 日向・東臼杵地区主催 研究発表・公開授業・授業研究会
2月17日 (金) 宮崎県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第2回評議員会 14:00~16:00	【会長・理事長 出会】 ○ 各地区スポーツ事業報告 ○ 各地区の小体連の研究の取り組み等
☆2月中旬 高鍋高校	第2回小・中・高体連合同理事会	【会長・理事長 出会】 ○ 令和元年度のまとめ
2月 日 () 木城町総合交流センター (リバリス)	第3回児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 協議(本年度研究のまとめと来年度研究の方向付け、来年度の役員)

II 事業部のあゆみ

児湯郡内における児童の体力向上のために、通信水泳記録会（5、6年生児童対象）、通信陸上記録会（6年生児童対象）を実施した。

令和4年度 東児湯小学校通信水泳記録会実施計画案

1 目的

- 各学校の水泳記録会の発表の場を通して、泳力向上の意欲を高めるとともに、他校の泳力の実態を知る。

2 対象

- 東児湯管内の小学校5・6年児童

3 募集記録

- 各学年 男女別 自由形（25m・50m） 平泳ぎ（25m・50m）
男女別 リレー（25m×4名）

4 実施方法

- 基本的に宮崎県小学校体育連盟標準記録認定要領をもとに実施する。

5 応募方法

- (1) 各校の記録をデータでまとめ、C4thの個人連絡機能にて集計する。
- (2) 事業部で記録を集約し、第2回体育主任会（11月8日）で結果を報告する。
- (3) 各種目、1位から3位まで表彰する。

令和4年度 東児湯小学校通信陸上記録会実施計画案

1 目的

- 各学校の陸上（50m走・ソフトボール投げ）記録会の発表の場を通して、体力向上の意欲を高めるとともに、他校の運動能力の実態を知る。

2 対象

- 東児湯管内の小学校6年児童

3 募集記録

- 男女ともに50m走とソフトボール投げの記録を測定する。

4 実施方法

- (1) 50m走
 - 基本的に文部科学省が定めた「新体力テスト実施要項」をもとに実施する。
- (2) ソフトボール投げ
 - 基本的に文部科学省が定めた「新体力テスト実施要項」をもとに実施する。
 - 投球フォームは自由であるが、できるだけ「下手投げ」をしない方がよい。また、ステップして投げた方がよい。

5 応募方法

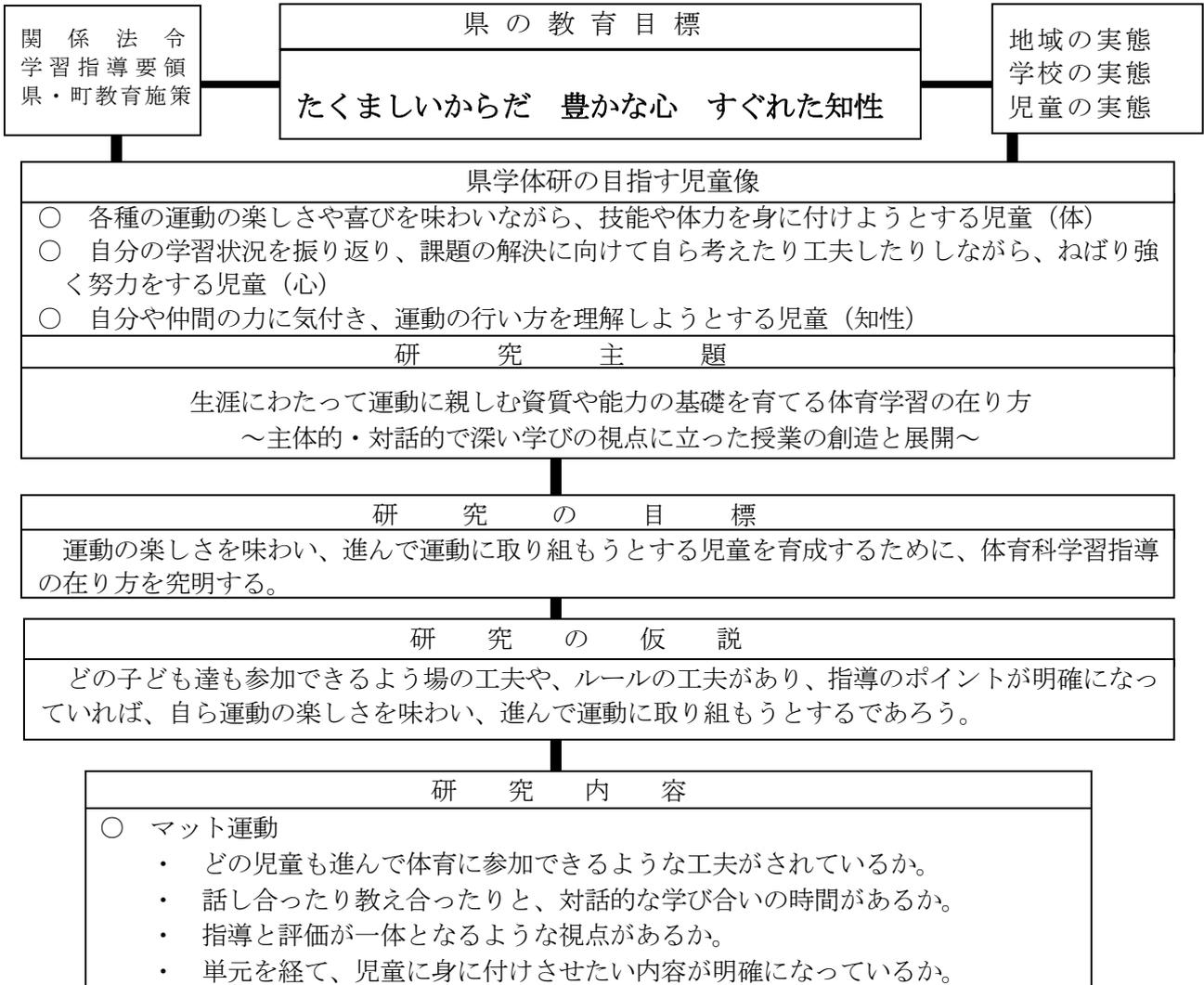
- (1) 各校の記録をデータでまとめ、C4thの個人連絡機能にて集計する。
- (2) 事業部で記録を集約し、第2回体育主任会（11月8日）で結果を報告する。
- (3) 各種目、1位から3位まで表彰する。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 研究の全体構想



3 研究の実際

(1) マット運動

- ・ マット運動の基礎となる感覚づくり運動を準備運動に組み込んだ。ゆりかご、かえるの足うち、前転、後転である。児童は感覚づくり運動を毎時間行っていたため、配慮が必要な児童も怖がることなく積極的に取り組むことができた。
- ・ 本時のめあてを「どうすればスムーズに技を組み合わせることができるだろう。」と設定し、技の組み合わせをスムーズに行うための方法を児童に考えさせた。グループ、全体で話し合いをさせると、「動きを止めない」「勢いをつける」「技の方向を変える」などのポイントが出てきた。
- ・ 単元を通して児童にできるようになってほしい技を、前転系、後転系に分けて児童に提示した。単元前半では技のできばえを高めるために、各技のポイントを児童間で話し合わせ、その動作確認を行うことで技への理解を深めた。その結果、単元後半では、自分達で技を選び、様々なパターンの技の組み合わせを行うことができた。
- ・ 自分の課題にあった場所を選ぶため、「坂道マット」「セーフティマット」「段マット」「ロング

マット」「各班のマット」の5つの場の設定を行った。「坂道マット」では後転・開脚前転・開脚後転、「セーフティマット」では後転・開脚前転、「段マット」では跳び前転、「ロングマット」では技の組み合わせの練習、「各班のマット」では各技の練習を行う場所に指定した。このようにして、児童が自分の行いたい技や、課題としている技に進んで挑戦しやすい環境を設定した。また、技の組み合わせのパターンを増やすために、方向転換の方法を考えさせた。足をクロスさせて前転したり、技の後にジャンプして体の向きを変えたりすることを意識させることで、様々なパターンの技の組み合わせができるようになってきた。

- ・ 毎時間、その時間に何の練習を行ったか、また、どのような発見があったかをワークシートに記入させた。児童自身がどのような課題があるか考えることで、その課題を解決するための目標を立てることができていた。
- ・ ICT を使用し、模範となる技の組み合わせを行っている児童の動画を全体で共有した。また、動画を視聴する前後にこれまでの学習内容を復習することで、児童の理解がより深まり、技の出来栄を高める方法や組み合わせ技のポイントなど、より活発な意見が出てくるようになった。



ICT を使用し、共通理解をしている様子



5つの場の設定の工夫

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- コロナ禍で前年度にマット運動を実施しなかった学年での授業実践となったが、「どの児童も進んで体育に参加できるような工夫がされているか。」「児童に身に付けさせたい内容が明確になっているか。」の視点を持ち続けながら研究員で研究を行い、感覚づくり運動の充実や場の設定の工夫を取り入れた。その結果、どの児童も主体的にマット運動に取り組むことができた。
- 授業実践の内容や授業研究会で出た意見を各校に持ちかえり、それぞれの授業実践に活かすことができた。特に事後研修会で取り上げられた後転系の指導方法の実践では、児童の後転系の技の動きがスムーズになるなどの成果が得られた。

(2) 課題

- 今回は児童の実態に合わせて、組み合わせに用いる技を制限し、指定を行った。しかし児童の技能をより高めていくためには、技の出来栄も振り返らせながら、児童が自身の能力に応じて技を選択し組み合わせを行っていく思考・判断力を育んでいく必要がある。

5 参考資料

- 小学校学習指導要領解説 体育編